

令和3年度水稻・麦類・大豆奨励品種の特性表

令和3年4月
山口県農林総合技術センター

水稻

種 類	早 中 晩	品 種 名	来 歴 育成場所 育成年	採 用 年 度	試 験 地	移 植 期 月日	出 穂 期 月日	成 熟 期 月日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	芒 の 多 少 ・ 長 短	草 型	穂 発 芽 の 難 易	脱 粒 性	玄 米						抵 抗 性						適 地	栽培上の留意事項等	概 評			
																腹 白 の 多 少	心 白 の 多 少	リ ッ ト ル 重 g	千 粒 重 g	収 量 kg/a	品 質	食 味	葉 い も ち	穂 い も ち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	ご ま 葉 枯 病			カ ラ バ エ	倒 伏	優 点	欠 点
種	早 生	ひとめぼれ	母 コシヒカリ 父 初星 古川農試 平成3年	平 10	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.25 8.11 7.28	8.31 9.17 9.6	85 89 81	19.5 20.0 19.3	419 408 478	やや 少・ 短	偏 穂 数	難	難	微	微	832 833 868	22.8 22.5 22.8	51.1 52.7 65.5	上 の 中	上 の 上	弱	弱	やや 弱	中	中	—	やや 弱	山間～中間 中庸田	耐倒伏性はやや劣るため、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、 白葉枯病弱 倒伏やや弱
		コシヒカリ	母 農林22号 父 農林1号 福井農試 昭和31年	昭 54	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.25 8.09 7.30	8.29 9.16 9.8	90 92 89	18.3 18.8 18.6	391 387 445	少・ 短	中 間	難	難	微	微	828 834 865	21.1 21.6 22.0	50.2 49.8 62.0	上 の 中	上 の 上	弱	弱	中	強	中	中	弱	山間～中間 中庸田 早植地帯	倒伏しやすいため、施肥・水管理に注意する。特に、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、予防、適期防除に努める。	食味極良 穂発芽難	いもち病弱 耐倒伏性劣 長稈
		晴るる	母 ヤマホウシ 父 コシヒカリ 山口農試徳佐分場 平成9年	平 9	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.28 8.12 8.2	9.2 9.19 9.12	84 87 81	18.8 19.2 18.8	410 412 460	無	中 間	やや 難	難	微	微	822 840 868	22.9 22.7 23.8	56.7 53.4 67.9	上 の 中	上 の 上	やや 弱	やや 弱	中	やや 弱	中	中	やや 強	山間～中間 中～肥沃田	いもち病、紋枯病の適期防除に努める。 2次枝梗の熟れが遅れやすいため、多肥栽培を避け、刈遅れに注意する。	倒伏やや強 収量安定 良質 良食味	いもち病、 紋枯病やや弱
		日本晴	母 東海7号(ヤマヒコ) 父 幸風 愛知農試 昭和38年	昭 44	本場 分場	6.10 5.10	8.18 8.11	9.28 9.25	82 83	19.7 20.1	383 432	少・ 短	偏 穂 数	難	難	少	微	841 850	22.7 23.0	57.8 66.0	上 の 中	上 の 中	中	中	強	中	弱	中	やや 強	中間～平坦 肥沃田	葉色がやや淡いため、生育初期の過肥に注意する。 ごま葉枯病にやや弱いため、砂質浅耕土の秋落田、ごま葉枯病常発田は避ける。	強稈 安定多収 白葉枯病強	ごま葉枯病 やや弱 秋落ち易
		きぬむすめ	母 キヌヒカリ 父 愛知92号(祭り晴) 九州沖縄農研センター 平成17年	平 21	本場 分場	6.10 5.10	8.19 8.13	9.29 9.24	84 77	17.5 18.0	359 365	希・ 短	中 間	中	難	微	微	830 849	21.5 22.1	56.7 64.0	上 の 中	上 の 上	やや 弱	中	やや 弱	中	—	—	やや 強	中間～平坦 中～肥沃田	初期の分けつ発生を促すため、深植、深水管理を避ける。 籾数過多となると品質が低下するため、極端な多肥栽培を避ける。 いもち病の適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、白 葉枯病やや弱
		中生新千本	母 農林22号 父 隼 愛知農試 昭和25年	昭 42	本場	6.10	8.24	10.6	83	18.7	465	中・ 中	穂 数	中	中	中	微	858	23.0	54.2	上 の 下	上 の 下	中	中	弱	弱	弱	強	強	中間～平坦 中～肥沃田	分けつが旺盛なため、基肥減肥、適切な水管理に注意し、過繁茂による倒伏を避ける。 青枯れが発生しやすいため、過肥にしない。	収量安定	白葉枯病弱 腹白多い 青枯発生し やすい
種	中 生	ヒノヒカリ	母 黄金晴 父 コシヒカリ 宮崎農試 平成元年	平 8	本場	6.10	8.24	10.6	87	18.7	391	希・ 短	偏 穂 重	難	難	微	微	860	21.9	55.8	上 の 中	上 の 上	中	中	弱	中	中	—	強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	やや長稈のため、多肥栽培は避ける。 外観品質が低下しやすいため、早期落水をしない。 刈遅れるとうす茶米、胴割米が発生しやすい。	良食味 登熟良好	1穂粒数が 多いと品質 変動が大きい
		恋の予感	母 西海232号(きぬむすめ) 父 中国178号 近畿中国四国農研センター 平成26年	平 29	本場	6.10	8.28	10.12	78	19.0	357	希・ 短	偏 穂 重	やや 難	難	微	微	857	22.1	61.7	上 の 中	上 の 上	中	やや 強	やや 弱	中	中	—	やや 強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	移植時期が遅れると、減収や登熟遅延の懸念があるので、極端な晩植は避ける。 葉いもちに強くないため、適切な防除に努める。	やや多収 良質 高温耐性やや強 良食味	登熟期間が低 温の場合、登 熟が遅延しや すい
		ミヤタマモチ	母 南海76号 父 みのたまもち 宮崎農試 平成2年	平 7	本場	6.10	8.22	10.5	83	19.5	310	少・ 中	穂 重	難	難	—	—	820	28.5	56.6	上 の 中	上 の 中	やや 強	やや 強	やや 強	中	—	—	強	中間～平坦 中～肥沃田	ふ先色が「黄白」のため、稈種との混雑に注意する。 1穂粒数の確保と登熟向上のため、太植えや過肥は避ける。	良質多収 強稈	刈遅れると 糠色が濃く なる

(注) 1 奨励品種決定調査による
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)
3 表中の値は本場が平成28～令和2年の5ヵ年平均、分場が平成10～18年の9ヵ年平均(「きぬむすめ」は平成16～18年の3ヵ年平均)

麦類

種類	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	芒の長短	株の開閉	脱粒性	播種程度	千粒重 g	容積重 g/L	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	抵抗性					栽培上の留意事項等	概評	
																			うどんこ病	赤かび病	縞萎縮病	倒伏	穂発芽		優 点	欠 点
小麦	ふくさやか	母 シサギコムキ 父 シカネコムキ 近中四農研センター 平成14年	平18	11.17	4.4	5.29	85	8.5	403	中	竹開	中	II	35.3	795	47.7	中の上	8.9	竹弱	竹弱	中	強	中	短穂で倒伏に強い。穂肥を中心に通常より施肥量を増やすことで増収をねらう。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。	早生、良質、多収 倒伏に強い 製めんの色と粘弾性優れる	穂発芽耐性が不十分 うどんこ病にやや弱い
	せときらら	母 A*9/B//A*9/B 父 A*9/B//A*9/C A:ふくほのか B:AC DomainC:北見 春03号 近中四農研センター 平成25年	平25	11.17	4.4	6.1	94	8.9	400	中	竹開	中	I	42.7	815	60.5	中の上	11.4	弱	強	中	竹強	強	過繁茂になると倒伏する可能性があるため、極端な早播きは避ける。子実タンパクが低くなる傾向があるため、開花期追肥の実施等により子実タンパク向上に努める	良質、多収 製パン性を高める遺伝子を持つ	子実タンパクがやや低い
裸麦	トヨノカゼ	母 四系9123 父 四国裸90号 近中四農研センター 平成17年	平22	11.17	4.1	5.19	93	5.1	403	竹長	竹閉	難	V	31.7	823	49.4	上 下	—	中	竹弱	竹強	竹強	竹難	湿害に強くないため、排水対策を徹底する。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。過繁茂になると、倒伏が多くなる。	強稈、多収	赤かび病にやや弱い
二条大麦	サチホゴールド	母 大系R4224 父 関東二条29号 栃木農試 平成21年	平26	11.17	3.25	5.16	100	6.6	559	竹長	竹閉	竹難	I	49.0	689	51.3	中 中	—	極強	竹強	極強	竹強	中	出穂が早く、凍霜害が発生する危険があるため、極端な早播きは避ける。排水対策、赤かび病の防除を徹底する。	良質、縞萎縮病に強い 醸造適性が優れる	側面裂皮の発生がやや多い

(注) 1 奨励品種決定調査による。ただし、数値以外の特性は育成地のデータによる。
2 表中の値は、平成28～令和2年産の5カ年平均。ただし、ふくさやかの子実タンパクは28年産を除く4カ年平均。「せときらら」には開花期追肥（窒素成分で0.6kg/a）を実施。

大豆

秋 夏 大豆 別	早 中 晩	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	試験地	播種期 月日	開花期 月日	成熟期 月日	生態型	主茎長 cm	分枝数 本/株	主茎節数 節	胚軸色	花色	子実				百粒重 g	リトル重 g	紫斑病抵抗性	蔓化の難易	倒伏の難易	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	用途	栽培上の留意事項等	概評	
															種皮色	臍色	粒形	大小											優 点	欠 点
秋大豆	中の晩	サチユタカ	母 フカユキエンレイ 父 エンレイ 九州農試 平成13年	平12	本場	6.16	8.1	10.31	IIIc	56	5.2	14.6	紫	紫	黄白	黄	球	大の小	36.2	754	強	難	難	38.1	中の上	46.6	豆腐 (味噌醤油)	莢数が少ないため、栽植本数を確保する(15本/m ² 程度)。播種が7月中旬以降となる場合、栽植本数を20~25本/m ² の密植とする。カメムシ防除を徹底する。ウイルス病に強くないため、黒大豆の隣接は避ける。	強茎、良質、多収、 紫斑病に強い。 成熟期の落葉が良い。 加工適性優れる。	やや少莢

(注) 1 奨励品種決定調査による。
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)。
3 表中の値は、本場は平成28～令和2年の5カ年平均。ただし、リトル重は平成26~29年の4カ年平均。